

# 新聞折込み求人広告紙に見る人手不足

## Truck Driver Wanted in an Ad Column



古井 恒：流通経済大学 流通情報学部 教授

### 略 歴

1952年秋田市生まれ 1976年流通経済大学卒業(8期生) 1980年日通総合研究所入社 在職中に流通経済大学大学院博士後期課程単位取得退学 1996年より流通経済大学の専任教員 現在は流通概論 環境経済論などを担当

### はじめに

トラック運転手の人手不足は深刻である。2014年度の場合、全職業平均の有効求人倍率が1.0倍前後であるのに対し、トラック運転手のそれは1.5倍ほどであり相当大的な差がある。運転手不足の背景には、低賃金や長時間労働などといった厳しい労働条件の存在が指摘されている。少子高齢化、人口減が進むわが国においては、トラック輸送需要とこれを支えるトラック運転手との需給ギャップが今後、ますます拡大していく可能性は決して小さくはない。本稿では、新聞折込み求人広告紙に基づきながら、運転手不足の現状を分析してみたい。

### 1. 運転手の全般的な不足

運転手不足は何もトラックに限ったことではないようである。筆者が普段利用している新京成バスの車内には常に運転手募集のポスターが貼られ、採用説明会の日程なども掲載されている。また、先頃乗り合わせた東武バスでは、同様の運転手募集のポスター掲示に

加え、車内放送でも運転手募集が繰り返し告げられ、これには少々驚いた。さらに注意してみると、大学最寄りの関東鉄道バスの車両のうち何台かには、車両外側まるごと1台に「われわれと一緒に働きましょう。運転手募集」とラッピングが施されている。また、タクシーの運転手背面の目につく位置にも、乗務員募集のお知らせは珍しくない。なるほどトラックに限らず、運転手不足はいずれの運送業界でも相当に深刻な状況のようである。

ただし、ここで注目すべきは、養成運転手の募集という点である。いずれのバス会社やタクシー会社でも、大型二種免許や普通二種免許をその時点で保持していなくとも、社内で資格取得を支援する研修を実施したり、資格取得のための費用を会社が負担することで有資格者を育成し、企業への定着を図ろうとしている。

トラック業界では、有資格者（必要種別の運転免許保持者）を中途採用し、即戦力として働いてもらうことを前提に運転手を採用することが多い。しかし、この全般的な運転手

不足の状況下で、何らかの方針転換をしないと、トラック業界の運転手確保はさらに困難なものとなるのではなからうか。

バスの車内外、タクシーの車内外、さらに電車の車内にも鉄道会社社員募集の広告が目立つ位置に掲げられている。トラック業界においてもまずは、多くの人目に運転手募集、養成運転手募集の広告を晒す必要があるのではないか。専用荷主車両は別としても、動く広告媒体となりうる営業トラックは街中を走り回っている。これを活用しない手はない。また、既に実施されているかもしれないが、今日、広告媒体は実に多様化している。トラック事業者、あるいは協会のHPなどでも積極的に募集広告を展開してはどうか。

## 2. 松戸市周辺の求人状況

普段、新聞の折込み広告に注目することはほとんどない。筆者に限っていえば、せいぜい金曜日朝刊に折込まれた近所のスーパーのチラシを抜いておく程度である。しかし、日曜日の朝刊に地元の求人広告のチラシが何種類か折込まれていることは知っている。トラック運転手の人手不足について考えるこの機会に、地元の求人状況を探ってみようと、ある日曜日の折込み求人広告紙をじっくりと観察してみた。

近所のスーパーマーケットのパートやアルバイトの募集が大半かと思いきや、内容は必ずしもそうではなかった。保育園の先生、医療事務、警備会社の警備スタッフ、工場内作業スタッフ、パン作りのパートさん募集など実に様々な求人が寄せられ、正社員の募集も

相当数に上る。その中でも募集掲載の圧倒的多数を占めているのが、介護老人保健施設、病院、介護付有料老人ホーム、グループホームなどの医療、介護、福祉に関わる事業所からの求人である。正・准看護師、ケアマネージャー、介護福祉士、介護ヘルパーなどの人材が多数求められており、伝えられているように、トラック運転手をはるかに上回る有効求人倍率の高さを実感する。

これらの医療、介護、福祉に関わる業務に共通しているのは、看護職であれば正看護師、准看護師の、介護職であれば介護福祉士、介護職員初任者研修修了（旧ヘルパー 2級）などの資格が求められる点である。また、正社員とパートの二本立てでのスタッフ募集が大半の事業所に共通している。基本的に入院患者、入所者に対しては24時間のケアが必要であり、例えば介護福祉士の正社員の場合では、24時間シフト交替制、休日は月9回のシフト制などの形態が一般的なようである。また多くの事業所では資格取得支援制度が設けられている。パートの場合であっても介護福祉士有資格者は朝7時から夜10時までの時間帯の中でシフト制が採られるところが多い。ちなみに、正社員の介護福祉士の給与は22万円以上、ヘルパー 2級で月21万円以上が松戸市周辺ではほぼ相場のようなものである。なお、パートの介護福祉士の時給1170円、ヘルパー 2級では1070円程である。これに対して、正社員の正看護師の給与は30万円以上、パートの正看護師の時給は1700円以上あたりが、地元での標準かと思われる。

24時間体制で、なおかつ有資格者によって

業務が遂行されるこれらの職場にあっては、シフトやローテーションといった人のやり繰りを確実にシステム化することにより、特定の人にしわ寄せしない仕組み作りがきわめて重要である。だからこそ、シフトを維持するための人手が欠かせないという構図であろう。また、有資格者の獲得のためには、何らかの事情で一度リタイアした人たちへの職場復帰への働きかけが欠かせない。正社員とパートとの二本立て募集というのも、そのような事情を踏まえた上での形ではなかろうか。

### 3. トラック運転手の募集

日曜日の朝刊折込み求人紙には、トラック事業者からの求人広告も複数掲載されている。同時に自家用トラック運転手の求人広告の掲載もあることに注意しなければならない。以下ではそれらの広告の中身についてやや具体的に触れてみたい。

#### (1) トラック事業者によるドライバー求人

##### ・A運送（正社員）

キャッチコピーは、「高給なのに休みの充実、中高年も歓迎」というものである。募集は3トン、4トンのルートドライバーであり、試用期間は3か月である。条件としては給与28～38万円、旧普通免許あるいは新中型免許保持者、時間は①5:00～②20:00～③1:00～の3パターンでいずれも実働8時間となっている。休日は週1～2日（シフト制、連休可、土日の応相談）である。追加情報として「配達先は千葉県および近県、長距離はありません」ならびに「ETC、バックモニター装備、

未経験OK、社員120名以上」の掲載がある。

ポイントはキャッチコピーにあるように、「高給」「休日取得」さらに「地元」といった点であろう。中途採用で即戦力を求めるというひとつの典型的なパターンかもしれない。ただし、介護職員などに比べると確かに「高給」であることも事実である。

##### ・B運送（正社員）

キャッチコピーは、「未経験OK やる気のある方なら経験問いません。男女ドライバー大募集」である。募集対象は2トン、3トンドライバーである。条件としては、給与30～40万円以上、研修期間（1～3か月）は日給8000円、中型免許以上の保持者である。勤務時間は8:00～17:00（コースにより変動あり）で、1日2～3件の配達（体力的に楽）、休日は日曜日、冬季、他となっている。追加的な情報としては、「経験者大歓迎。車・バイク通勤OK、全車ナビ付き」に加えて「20～50代活躍中、お近くにお住いの方、活躍中」とある。

キャッチコピーでは未経験OKと言いながら、追加情報では経験者大歓迎となっており、後者の方が恐らく本音なのであろう。また、「お近くにお住いの方、活躍中」とあり、今すぐにでも地元在住のドライバーが欲しいという切迫感が伝わってくる。また「体力的に楽」は、女性、中高年者でも問題なく勤務可能を訴えるものであろう。

すなわち、以上2件の運送会社の求人広告に共通するのは、「高給」「休日充実」「地元配送で長距離なし」という条件と、有資格者を即戦力として活用したい、中途採用したい、

他のトラック運送会社からの転職歓迎というあたりが本音なのかも知れない。

## (2) 自家用トラック運転手の求人

一方で、同日の新聞折込み求人紙には、自家用トラックの運転手を募集する企業も複数含まれている。トラック運送会社のみならず、白ナンバーの自家用トラックによる集配送業務においても、運転手に対する需要は相当に大きいのであろう。以下に募集内容の概略をまとめる。

### ・Cサービス（正社員）

同社のキャッチコピーは、「働きながら地域に貢献 古紙回収ドライバー〈正社員〉」、「仕事量安定、収入も安定」というものである。業務内容は近隣のスーパーや企業からダンボールなどの古紙を4トンパッカー車を用いてルート回収するというものである。資格としては、中型免許（旧普通免許）が求められている。労働条件は次のとおりである。給与25万円以上（試用期間の1か月は日給10000円）、勤務時間は6:00～15:00（回収ルートにより前後、早く終わればその後はプライベート）、休日は週休2日制（ローテーション）という内容である。追加情報として、「4トンの経験なくても、2～3トンならという方も大歓迎」「経験少なくても、最初は先輩のトラックに同乗して教えてもらえるので安心」「トラック経験者の方は優遇」などが加えられている。求人広告にはさらに1日の流れ（5:45 出社→回収→14:30帰庫→15:00帰宅）なども図示されている。

キャッチコピーにいう「仕事量安定、収入も安定」は、給与はそれほど高くはないが、

長時間運転ではない定時帰宅の現実性を強調するものであろう。さらに「働きながら地域に貢献」というフレーズは、地元で「やりがい」を見つけてはという提案かもしれない。またこの場合のトラック経験者については、トラック運送事業者の下で働いている運転手に対する転職の勧めとも受け取れる。

### ・Dレンタル（契約社員）

建設機械のレンタル事業を展開する会社では、建設機械の納品、引取りおよび構内メンテナンス作業ができる人材を求めており、大型（7トン）自動車運転免許保持者が対象である。キャッチコピーは、「真面目に業務に取り組んでいただける方、歓迎します。新しいステージで活躍してください」というものである。労働条件としては以下の諸点が示されている。勤務時間は8:00～18:00（休憩2時間）で残業ほとんどなし、休日は隔週2日（日曜+平日1日）の他に祝日、夏・冬期休暇あり、また勤務地は市川市近隣地区であり、給与は30～35万円（経験による）という内容である。

「新しいステージで活躍してください」というフレーズは、経験者優遇というよりも今現在、トラック会社で大型トラックを運転している運転手に対して、むしろ地元で定時で働ける職場はいかがですか、という呼びかけにも聞こえる。

トラック事業者による求人広告に比べ、自家用トラック運転手募集の内容はさらに具体的である。決して高給とは言えないが、地元で地域に貢献しながら安定した職場で働いてみませんか、トラック会社と違ってプラスアルファがありますよと訴えかけているよう

にも感じられる。

## むすびにかえて

最近の新聞報道によると、ヤマト運輸は2016年度入社の高卒運転手採用を400人規模にするという。2013年度までは年120人程度の高卒運転職の採用であったが、14年度には281人、15年度は257人、16年度にはさらに大幅に採用枠を拡大するというものである。高卒の場合、入社後に運転免許を取得するのが一般的であり、さらに3年以上の運転経験を経て大型免許取得となる。その意味で従来の既免許取得者の中途採用による「即戦力」というパターンとは異なる。しかし、ヤマト運輸広報によると「中途採用は今後さらに厳しくなる。長く働いてもらえる人を確保して育てたい」という狙いから、今回の高卒運転職の大幅採用拡大に踏み切ったという。

本稿でも先に触れた、人手不足が深刻で事業所間で取り合いとなっているような看護、介護職については、資格（免許）が十分ではない応募者であっても、内部で養成、あるいは外部研修などによって資格（免許）保持者に育て上げ、長く企業で活躍してもらおうという姿勢で対処しようとしている。

トラック業界においても有資格者（必要運転免許保持者）を中途採用して、即戦力として活用するという従来型の人材補充のスタイルは、もはや通用しない程、人材不足がタイトになりつつあるという認識は確実に広がりにつつある。上記のヤマト運輸の高卒採用大幅拡大もこのような流れのひとつであろう。

今回、本稿で取り上げた検討対象は、あく

までも地元での雇用、求人というものであるが、「長距離ありません」の記載が示すように、トラック運転手側の求職条件として地元、日帰りの優先順位が相対的に高いことも容易に想像できる。これとの関連でもうひとつ考慮しなければならないのは、自家用トラックの運転手需要の大きさであろう。資格（免許）あり、経験ありの営業トラックの運転手は、まさに即戦力として優遇、大歓迎の対象そのものである。トラック業界にとっては、いわば伏兵の存在かも知れない。トラック業界からの「流出」を防ぐ意味からも、さらなる労働条件の改善、とりわけ労働時間の短縮、それを担保するための輸配送システムの抜本的改善や対発荷主・着荷主との関係改善が今後ますます重要となろう。

逆に「自営転換」の視点から、自家用トラック運転手を営業トラック運転手に変身させる手立てを考えてもよいのではないか。その際のキーワードとしては、「養成・育成」「定時・安定」「働きがい・やりがい」「地域社会への貢献」などが挙げられるかもしれない。

新しい酒は、新しい革袋に入れる必要がある。

### [参考資料]

- (新聞折込み求人紙3紙 2015年8月23日発行)
- ・しごと情報 アイデム  
松戸市ほぼ全域、市川市、柏市の一部 10万部発行
  - ・クリエイト  
松戸北部周辺版 10万部発行
  - ・求人ジャーナル  
松戸・流山版 10万部発行
- 2015年8月11日 朝日新聞朝刊記事